

# 介護のなかま

2010年3月8日  
【発行】生協労連  
介護部会事務局  
NO. 36  
電話：03-3408-0067  
fax：03-3408-8955  
メール：qyg03057@nifty.ne.jp

## 介護事業・介護保険問題で

## 日本生協連山際部長と懇談

### 人材育成などの課題で一致

生協労連介護部会は2月27日(日)に介護事業や介護保険制度改定問題で日本生協連の福祉推進部山際部長と懇談をしました。

まず、山際部長より以下の報告がありました。

#### ○生協の福祉事業の到達点について

- ・今年度は一人当たり利用単価が下落。軽度の方が増えてきていること、身体、生活援助ということでは、生活援助の比率が増大し、単価が下落している。再活性化対策が必要となってきた。
- ・事業剰余率は11月度までで▲0.44%。昨年よりは改善されている。7月以降は黒字の基調となっていっている。年度を通すと生協トータルで黒字になる見込みである。経常では▲2%。また、重点15生協では経常で黒字となる見込みとなっている。その大きな要因は、現場の方の頑張りである。民間のデータではいずれも黒字となっている。事業拡大と経営の効率化を重視してきた結果が共通した理由と思われる。
- ・通所介護、訪問介護、居宅介護支援の3事業という点では、訪問介護が1500～2000時間内と厳しい。加算があると1500時間でOKとなる。サ責の時間数は

450時間で換算すると、80%以上に上げていくことが必要となっている。居宅は充足率と加算が重要。また、通所・介護は稼働率が重要となっている。定員と実利用の関係が大事で80%以上をめざすことが必要。同時に、利用者は入れ替わるので、日常的な拡大が重要となっている。

- ・「福祉事業再構築」成功要因は、①地域の実情に合った事業づくり、事業の再構築、②事業効率化の徹底、③そして職員のマネジメント力の向上といえる。

#### ○介護保険制度の改定内容と課題について

- ・法案は3月の国会に提案される予定。法案の骨格は明らかになっている。ポイントは地域包括システムを実現していくこと。ここを中学校エリア、2～5万人を想定している。医療、介護、予防、生活支援システム。ポイントは6点ある。医療と介護の連携強化、高齢者の住まい整備や施設サービスの充実、いわゆる住まいも16種類あるといわれているが、統合して分かりやすくする。そして、認知症の対策など。
- ・法案では利用者負担を盛り込まないことになった。保険料は5,000円が壁で、財政安定化基金の取り崩しで介護保険料のアップを押さえようとしている。

#### ○介護保険制度の見直しにたいする日本生協連の対応について

- ・日本生協連は2回にわたって提言を行ってきた。①高齢者のくらし方が尊重され



介護・福祉ではたらくみなさんにコピーして配布をお願いします

る制度へ、②「在宅中心」「地域で支え合う介護」の実現を、③持続可能な制度に向け介護サービスを担う人材確保・育成を、の3つの視点でやってきた。重視したのは、自治体に要望するだけではなく、自分たちが主体者になるということで問題提起した。いままでになく踏み込んでつくった。賛成か反対かではなく、本来あるべき土俵を問題提起した。要介護認定の在り方の見直しを問題提起（現行の認定制度では認知症が分からないなど）している。法案では要支援者が外されることはなくなり、制度的には残ることになった。そうしたことは、インパクトがあったのではないかと考えている。

- ・一方、給付分科会の議論がはじまった。気をつけないといけないことは、医療と介護の連携強化。ここは自治体の判断となる。給付の重点化問題。サービスの配分とお金の問題がある。生活援助については、これまでの流れから単価の切り下げが検討されるだろう。お金のかからない方向へ向かうと思う。

#### ○日本生協連の2011年度の戦略課題

- ・既存事業の強化、キャリアパス、力量アップ、事業の効率化、サービスの質の向上とコンプライアンス（労働法規も含め）が課題となる。また、訪問介護、デイサービスは厳しさが増してくるので、差別化が重要となってくる。医療連携の部分では認知症対応が重要。医療生協との連携、そこでカバーできない地域は在宅診療とのネットワークが重要となる。また、居住系サービス事業にも挑戦していきたい。

山際部長の報告の後、意見交換を行いました。世話人からは、「この間、黒字化が重点だったし、それは理解できる。しかし、10年経っても人が育っていない」「一人ひとりの力量も大事だし、事業所トータルとして考えていく必要もある」「介護は人で成

り立っている。スキルアップ、能力アップがどう将来につながっていくのかがまだ見えていない」「サ責の大変さが変わっていないことが課題になっている。スーパーバイザーの役割を担えず、代行業になっている」などの意見が出されました。これにたいし山際部長からは、「介護は人で成り立っている。スキルアップ、能力アップがどう将来につながっていくのかがまだ見えていない。ここをやらないと成り立たない。業界全体でも同じ。人の出入りが激しい。サービスの質の指標がない。今後サービスの質が問われてくる。人へのケア、認知症へのケアが指標、基準で問われてくる」「現場の声を制度に反映させていくことが重要と考えている。引きつづきこういう機会を持たせて頂きたい」との発言がありました。

## 第3回世話人会開催

第11回交流会、厚労省への要請項目等で論議

介護部会は2月27日（日）に世話人会を開催し、5月21日（土）～22日（日）に予定している第11回介護事業交流会&第2回総会、4月18日に予定している厚労省交渉、そして2011年春闘のとりくみなどについて議論しました。

### 第11回介護事業交流会&第2回総会

記念講演は、長年にわたって地域医療に携わってきた長野県上田市の矢嶋診療所院長の矢嶋嶺（たかね）さん。「これからの介護・医療と介護・福祉で働く人の役割」（仮称）をテーマに講演してもらいます。また、分科会は6つの分科会を予定しています。多くの参加者をお待ちしています。

詳しくは案内&参加申込書ご覧下さい。